

## 第5学年 道徳科学習指導案

令和5年10月4日（水）第5校時

- 1 主題名 互いに信頼し合う友情 内容項目【B 友情、信頼】
- 2 ねらい 友情の在り方について、多様な感じ方や考え方を出し合い吟味する過程を通して、物理的な距離ではなく、信頼し合うことが友情を深めるために大切であることに気付き、よりよい友人関係を築いていこうとする態度を育てる。

教材名 「離れていても」（出典：彩の国の道徳 「未来に生きる」埼玉県教育委員会）

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいや指導内容について

本主題は小学校学習指導要領の内容項目B「主として人とのかかわりに関すること」の〔友情・信頼〕第5学年及び第6学年「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」をねらいとしている。これは、第3学年及び第4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」を受け、中学校の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」へと発展していく。

本指導内容は、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神を持つことに関するものである。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育めるようにすることが求められる。そばにいて共に学んだり、遊んだりするだけが友達ではなく、遠くに居ても互いに信頼し合い、手紙や電話、SNSを活用して、お互いの気持ちを共有して友情を深めることも大切である。また、コロナ禍を通して会いたくても会えないという期間が長くあった。その中でSNSが発達し、直接会うことは叶わなくても、オンライン上で会うことが可能になった。コミュニケーションの方法が変化しても人と人とのやり取りや、関わり方の根底にあるものは変わらない。このことを踏まえ、本教材では、情報機器を手段として用いることで距離的な問題を解決できることと、それらを活用する人の思いについて考えられるようにしたい。

#### (2) これまでの学習状況及び児童の実態について

(略)

#### (3) 教材の特質や活用方法について

主人公の「ぼく」は、父の仕事の都合で来月転校することになっている。そのことを親友の仁には伝えられずにいて悩んでいた。母の後押しもあり、仁に伝えることを決心する。友達を続けられるか不安になりつつ、タブレットを使うことで会話ができ、「一番の親友でいられる

よね」と投げかけるが、近くに居ないためにすぐに会えない。「離れてしまったら友達を続けるのは無理なんじゃないかな」と言い返されてしまう。仁のことで頭がいっぱいになりながら帰宅すると、父がオンライン会議をしている姿を見かける。仕事の関係者と積極的に意見を言い合う姿をじっと見守っていたぼくは、会議終わりの父に不思議に思っていることを尋ねた。父から「目の前でも、オンラインでも、相手のことを信頼しているからこそ、言い合えるんだよ。遠く離れていたって、相手に伝えたいとか、相手を大切にしたいという思いは伝わるんじゃないかな」と教わる。父の言葉を聞いた後、真っ先に仁のことが頭の中に浮かんだぼくは電話をする。

3か月後、転校先の新しい友達と仁も入れてオンライン会議による作戦会議をすることになった。父の「離れていても、だな」という言葉を聞き、友情に距離は関係なく、相手のことを信頼しつつ、努力を続けることによって友情を深めることができるという話である。本学級の児童の実態を受け、主に次の視点を中心に話し合い、ねらいに迫る。

- ① 親友である二人が離れたくないという気持ちがありつつも、物理的な距離の問題で友情が揺らいでいる場面

親友であり続けたい二人の気持ちと、物理的な距離の問題があると親友を続けるのは難しいのではないかという葛藤している心情や二人の考え方の違いを押さえる。僕はタブレットという手段を用いることで解決できるのではないかと前向きに考える。しかし仁は会いたくても会えない。離れてしまったら難しいのではないかと不安な気持ちになっている。しかし、二人の気持ちの根底には、これからも親友でいたいという気持ちがあることに気付かせる。

- ② 父の姿と会話から解決方法に気づき、仁と親友でい続けられるかもしれないと気付いた場面

父のオンライン会議の様子と会話から教えてもらったことをもとに、ぼくが考えた友情を続けるために必要な手段について考える。離れてしまっても解決する手段はある。しかし、画面越しだったとしても相手のこと信じることや、思いを伝えたいという気持ちを大切にしなければならぬことに気付かせる。

- ③ 父の「離れていても、だな」という言葉から、どのようなことが大切なのかを考える場面

教材から自身の生活につなげることができるようなまとめを行う。友情を続けるために大切だと考えることを自分なりの言葉でまとめつつ、フリートークを行い友達の意見も聞くことができるようにする。

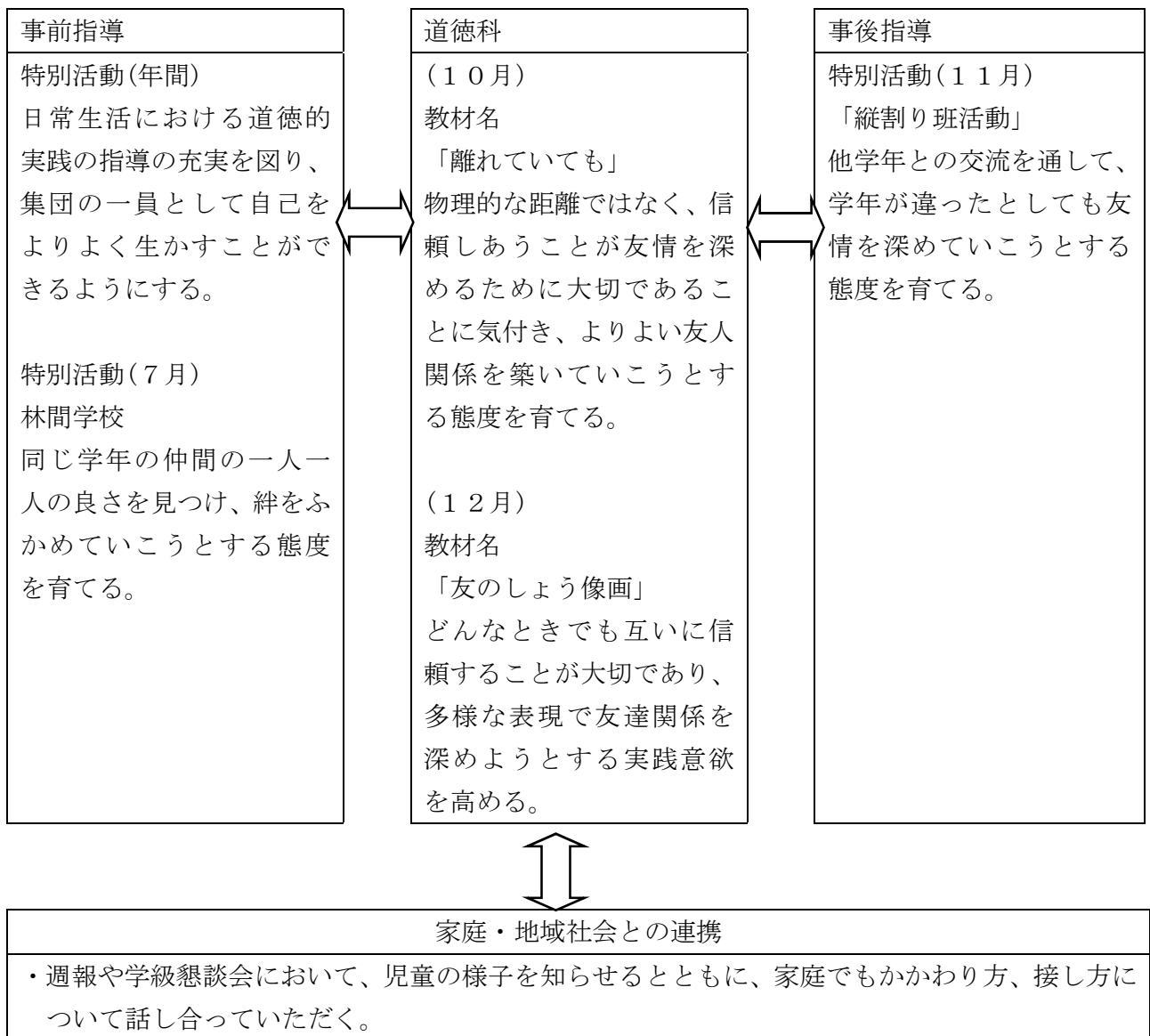
以上のことを踏まえて、「友情、信頼」についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方を深めたいと考え、本主題「互いに信頼し合う友情」を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点	時間
導入	1 アンケートの結果をもとに現状を把握する。	・自分と似ている体験をしている人が多い。	・事前に行ったアンケート結果や留学生の話をもとに関心を高める。	4分
展開	2 本時の課題を確認する。	離れていても友情を深めるためには、何を大切にしたら良いか		1分
	3 教材「離れていても」の読み聞かせを聞き、話し合う。	<p><b>【登場人物】【条件・状況】</b></p> <p>○ぼく・仁・母・父</p> <p>ぼくが転校することを仁に伝えられずに悩んでいた。一番の親友であり続けるためにタブレットを使えば会話できると提案してみる。</p>		25分
	○転校のことを伝えたぼくと仁はそれぞれどんなことを考えたのだろうか。	<p>ぼく…離れたくない。タブレットを使えばなんとかなるだろう。そこまで言わなくても。</p> <p>仁…離れたくない。友達でいたのに。無理だよ。</p>	<p>・両者ともに離れたくないという気持ちはあるが、物理的な距離の不安と親友でいられなくなるのではないかという心理的な不安があるという人間理解ができるようにする。</p> <p>☆二人の登場人物の心情をそれぞれとらえることで、友達でいたいという気持ちがありつつも揺れている心情を多面的・多角的に考えようとしている。</p>	
○父の姿と会話から、ぼくは何に気付いたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離れても大丈夫。</li> <li>・オンラインでもしっかり話し合える。</li> <li>・信頼が大切。</li> <li>・お互いが思い合うことが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくの悩んでいたことが解決できるかもしれないと気づき、ぼくの考えや心情を考えられるようする。</li> </ul>		
○仁の顔が真っ先に浮かんだ時はどんな気持ちだったのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ友達を続けられる。</li> <li>・話せばわかってくれるはずだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転校のことを伝えた後の頭に浮かんだ時と今回の頭に浮かんだ時の比較を行う。</li> </ul>		

終末	4 学習を振り返りながら、今後の友情の深め方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離れていてもお互いが信じあうことが大切だ。そのわけは、画面越しだったとしても信じ合いながら話せば距離は問題なくなるから。</li> <li>・離れていてもあきらめないことが大切だ。そのわけは、距離が離れても解決するための手段はあるはずだからあきらめずに問題を解決できる手段をできるようにする。</li> <li>・離れていても仲良くし続けたいとき気持ちが大切だ。そのわけは気持ちがあれば友達でい続けることができるから。</li> </ul>	☆自分の意見をもとにフリートークを行い、友達の意見を聞きながら道徳的諸価値について考えを深めたり、広げたりしている。	15分
----	--------------------------------	--	--	-----

### 5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・教材や日常生活を通して、物理的な距離が離れてしまっても友情を深めようとする場面について、様々な視点から考え、話し合っている。

【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・友達と互いに信頼し合い、学びあって友情を深め、離れてしまっても努力を続けることでさらに友情を深めることができることについて自己を見つめながら考えている。

7 板書計画

